

# 変形膝関節症に朗報

## 痛み軽減の装具考案

松山市で考案され全国発売になる変形膝関節症用の装具



松山市山西町、済生会松山病院（岡田武志院長）のリハビリテーション科グループが2001年に考案した変形膝（ひざ）関節症の痛みを大幅に軽減する装具を、業界大手企業が商品化し、2月下旬に全国発売することになった。

### 済生会松山病院グループ

### 商品化

### 全国販売

### へ

埼玉の会社

同関節症は、膝で骨と骨のクッションの役割を果たしている軟骨がすり減り、骨が変形、痛みや腫れが生じる。四十歳以上の五人に一人がかかるといわれ、変

形が進むと大半はO脚になる。重症者の痛みを取り除くには、人工関節を入れるなどの手術が有効だが、人工関節には耐用年数があるほか、合併症で手術が難しいケースもある。従来の装具は、膝を保護し症状悪化を防ぐのが主目的で、痛みを和らげる効果は薄かった。同病院の理学療法士の山崎準平さん（@）、谷本一之さん（@）と現在、済生会小田病院勤務の、義肢装具士の本窪義親さん（@）の三人が考案した装具は、ジョイント部分を工夫。従来の装具が曲げる、伸ばすの単純な動きだったのに対し、本来の膝の動き同様、伸ばすときに膝下部分を外側にね

じる動きをするのが特徴。立ち上がったたり、歩くなど、膝に荷重がかかる際の痛みを除く効果がある。同病院は、これまでに患者約百五十人に装具を製作した。装着後の経過を調べると、一カ月後で「ほとんど痛みなし」が67・5%、「わずかに痛みあり」が28・6%と結果は良好。継続的な使用により、関節の周囲の筋肉を正常な動きに近づけるリハビリ効果も見られた。装具の性能に着目した埼玉県の啓愛義肢材料販売所が契約を結び、製造・販売する。全国どこでも医師の処方箋で既製品を入手可能になる。欧米でも特許の手続きを取っており、同社の代

理店を通じて販売する。亀田和弘社長（@）は「日本人とは骨格が違うため改良が必要かもしれないが、画期的な装具なので海外でも関心を集めるだろう」とみている。開発した山崎さんらは「日本、そして世界中の患者さんに広がり、役立てばうれしい」と期待する。問い合わせは啓愛義肢材料販売所へ電話048（837）5211。

※現在この会社では販売していません。